

主なイベント

<p>■四月六日(日)</p> <p>桜まつり</p> <p>高野口バイル資料館前において、バイル製品即売会及び再織手織体験を実施。地域住民へ产地PRを行った。</p>	<p>■四月三十日(水)～五月三日(土)</p> <p>大阪・関西万博</p> <p>大阪・関西万博内EXPOメッセ「WASSSE」において和歌山県のイベントとして「Wow! Wakayama!～未来へつなぐ、おどろきの国～」が開催され、当組合員が製造する製品の販売を行い、来場した国内外の者若男女へ产地PRを行った。</p>	<p>■五月十四日(日)</p> <p>大阪・関西万博</p> <p>大阪・関西万博内関西パビリオン多目的エリアにおいて開催されたイベントにて、再織手織体験を実施し、多数の来場者に产地PRを行った。</p>
<p>■四月</p> <p>■六月十二日(木)</p> <p>織物物故労者慰靈祭</p> <p>当産地織業界物故労者の御靈を慰靈し、業界の活性化・発展を祈る。於高野口公園</p>	<p>■六月十一日(木)</p> <p>令和七年度通常総会</p> <p>全議案原案通り可決。</p>	<p>■九月十四日(日)</p> <p>大阪・関西万博</p> <p>東京・浜松町の「東京都立産業貿易センター」において開催された本展示会に、当組合から五社が出展した。</p>
<p>■六月</p> <p>■六月七日(土)</p> <p>はしもとマルシェ</p> <p>橋本市民会館横駐車場において、バイル製品即売会及び再織手織体験を実施。地域住民へ产地PRを行った。</p>	<p>■八月</p> <p>■八月二十七日(水)</p> <p>勉強会</p> <p>「ウールについて」</p> <p>日本毛織株式会社 衣料織維事業本部 マーケティング部 田先慶多氏 坂本奈都子氏</p>	<p>■七月</p> <p>■七月九日(水)</p> <p>勉強会</p> <p>「カーボンニュートラルを経営に活かすCO₂排出と経営指標～」</p> <p>一般社団法人中部産業連盟 エネルギー管理士 中小企業診断士 梶川達也氏</p>
<p>■十月</p> <p>■十月一日(水)・二日(木)</p> <p>高野口バイルアブリック展～ふわふわ21～開催</p> <p>東京・表参道の「La Collezione UNO」において、第二十一回目となる産地単独展示会を実施。</p>	<p>■十月</p> <p>■十月二十七日(月)</p> <p>勉強会</p> <p>「製品単位のCO₂排出量算定ワクショップ～地域産業の脱炭素ブランド化に向けて～」</p> <p>一般社団法人サステナブル経営推進機構 岡山オフィス 所長 仲井俊文氏</p>	<p>■十月</p> <p>■十月十一日(木)</p> <p>A/W王展</p> <p>Tokyo Textile Scope 2026 東京・浜松町の「東京都立産業貿易センター」において開催された本展示会に、当組合から五社が出展した。</p>
<p>■十一月</p> <p>■十一月一日(土)・二日(日)</p> <p>販売イベント</p> <p>くしがきの里において、組合員七社による製品販売イベントを実施。</p>	<p>■十一月</p> <p>■十一月三日(水)～九日(火)</p> <p>あべのハルカスポップアップイベント</p> <p>高野口バイルの技術とアイデアを活かした魅力ある商品を周知するため、販売を実施。</p>	<p>■十一月</p> <p>■十一月二十一日(土)・二十二日(日)</p> <p>販売イベント</p> <p>かつらぎ西パーキングエリア(下り)において、組合員七社による製品販売イベントを実施。</p>

ちょっと
ひとりき

「曖昧バイル」

安部 光弘

「私は今、安全なところを確保しそこから中継しております」

最近の台風や災害時のテレビ放送である。昔は傘がひっくり返って飛ばされそうにずぶ濡れのリアルな映像をよく見たものだ。大変良いことだと思う。

横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合、車は一時停止する義務があるが、最近では、その取り締まりが強化されている。安全講習でもそのビデオを見た。自転車の身勝手な運転も取り締まりがだんだん厳しくなってきており。大変正しいことだ。ながら運転の厳格化に向けての明文化も遅まきながら進んでいるようだ。

ネットの世界は、潔癖な勤善懲惡で、間違った行動は即座に匿名で批判される。それが大きな渦となって世論の中心となり、匿名の人たちは勝ち誇る。これも間違ってはいないのだからいいのだろう。

一方、この一見安全な分かりやすい世界に住んでいると、守られている幻想から自分を防衛する、自分で自分を守る耐性が劣ってきてているのでは、と思うこともある。

災害の国の日本で安全なところなんて無いに等しいし、信号が青で渡っていても車が突っ込むこともあるだろうし、真面目に生きていても恐ろしい被害に遭うことがある。理論が間違っていても話を聞かない、やり押し人間はそこらじゅうにいる。便利になんて人は変わらない。本当に自分を守ってくれる人や組織なんて簡単には無いのだ。

SNSは便利なツールに見えて、実は表面的なものも多い。美味しい料理より、美味しく見える料理の絵が欲しい。楽しくなくても楽しく見えるスナップ写真があればいい。楽しい人生を見せるお遊びに終始する。ネットは、簡単に幸せいっぱいで清潔で見えて市井のくらしさは違う。思っているほど他人は幸せでないのだから安心しよ



う。また煽情的な原理をかざしても、話し合いで理解し合うには、面倒な長い時間を必要とする。やり取りの時間が何度もあって、やがて理解は深められる。或いはどちらかが良くて相手が絶対に悪いなんてことも世の中にはそれほどなく、ほとんどの事柄は曖昧なものばかりだ。気持ちよく水戸黄門の印籠で即解決にはならない。

ネットの過激な発言は、コンビニ定員に土下座を強要する姿にダブって見える。そんな行動を批判しているはずなのに。楽しいことだってそんなにあるはずがなく、大体面白くない中で生きている。それは不幸せではなく平凡で幸せな生活なのです。

本当に教える、或いは肝に銘ずるべきはボヤっと生きる暮らしぶりです。なぜ、ネットに書かれないのであるのか。書けるようなことでは無いからです。長い文章になるだろうし、長い文はネットでは喜ばれない。だから結論ボヤっと生きればいい。また話を一方的じゃなく視点を変えるクセ、または行間を読む人間くさい生き方です。

さて、バイルの業界は、そろそろ限界、業種転換が必要など外野から声が聞こえます。ものづくりはアジアへ移管され、織維製造業の衰退が言われています。流れはそっちにあるのでしょうかが、やり方はまだあります。

開発の基本はパソコンで処理するものでは無くボヤっとしていないとできない。AIの力を超える、或いは即座に答えが出てくる恐怖もあるが、きっとAIはボヤつてできないから開発はできない!と信じたい。どうなのでしょうか…怖いのでAIには聞いておりません。

素材開発、昔は一つの開発に1万mの受注、ならば今の時代では10の開発で1万m、ロットの小さい受注に、より多くの開発に人と時間をかける。販売手法は今では、目に見えないネット通販、特化したルートでのネット販売、クラウドファンディングの特殊性、今もロットは少なくて、10倍のルートに仕掛けて同じ受注量です。新たな努力が必要なのです。

安全な経営なんて、どの業種にもどの規模の会社にもありません。幸い私たちは小さな組織です。ちょっとしたヒントで業績のV字回復が期待できます。とネットでそんな風な文章を見かけても、そんなに簡単にいきませんが。